

第5回 地域連携の会

2019年2月25日、第5回台東区立台東病院・老人保健施設千束「地域連携の会」を開催しました。この会は当施設が開設5年目を迎えた際に、台東区にお住まいの方や患者さま、利用者さまのために、ますます地域の医療機関の先生方と連携を深めていきたいと始めたものです。今回も浅草医師会会長佐々木聡先生、下谷医師会会長長田村順二先生、台東区齋藤美奈子健康部長からご挨拶をいただいたのはじめ、大勢の地域の先生方に参加していただくことができました。

地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター中村正和センター長による「受動喫煙防止の法的強化—その意義と課題—」の講演もあり、当施設の地域ヘルスプロモーション病院としての取組みを地域の先生方に知

ていただく機会となりました。

これからも地域の先生方と連携して「『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します」という理念を実現していきたいと思ひます。



台東病院・老健千束 職員活動発表会

当施設では、職員が自主的に各部署でテーマを決めて、業務の改善に努めています。1年に一度その発表の場を設け、2019年3月20日・27日の2日間、2018年度の活動発表会を行いました。

各部署5分間の発表持ち時間で、それぞれのテーマについて1年間の活動の成果を発表しました。発表後は、山田管理者、藤原副管理者をはじめ、他部署から鋭い質問も飛び交い、次回に向けて、また意気込みを新たにされた2日間でした。

発表順	20日	27日
1	看護介護部 プリセプターの振り返り	医療安全部会 CLIPチーム分析2019
2	6階(褥瘡委員会) ブッシュアップ体操の意義と現状～褥瘡予防へ	8階(主任会) 入浴方法の見直しについて
3	通所 利用者のQOL向上をめざして～外出支援～	7階(栄養委員会) ミールラウンドの取り組み
4	4階 摂食嚥下機能評価の活動を通して	診療部 医療情報の収集、台東病院情報センター構想
5	事務部 ネットワークの構築と連携強化	外来 高齢者総合的機能評価票の運用取り組み
6	放射線室 質の向上を目指して	5階 ACP導入について
7	デイケア・訪問看護室 地域で暮らす住民に提供する看護	リハビリテーション室 老健利用者に対する園芸活動とその効果
8	栄養室 栄養室の取り組み	3階 身体拘束について

ミニコンサートを開催

当施設1階エントランスを会場に、ボランティアによるミニコンサートを定期的に開催しています。

2月20日は「オカリナコンサート」が開催されました。上野アンサンブル「遊鷲(ゆうが)」と「シルクの会」をお迎えしました。大勢の利用者さんがオカリナの優しく暖かな音色を楽しみました。

また3月6日には「ピアノと歌のミニコンサート」を開催。宮坂美千子さんと保坂とし

子さんによる歌と演奏を聴き、利用者さんは素敵な時間を過ごしました。



あさがお通信

「台東区立台東病院・老人保健施設千束のこれから」



台東区立台東病院・老人保健施設千束 管理者
山田 隆司

台東病院はこの4月で開設10年になりました。開設以来、「『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します」を理念に、「高齢者医療に力を入れます」「在宅医療を支援します」「まずは受け入れるという姿勢を持ちます」「地域と連携してサービスを提供します」「医療に恵まれない地域の支援をします」という5つの基本方針を進めてきました。

2019年度からは、新たに次の3つの運営方針を掲げました。

- ①地域包括ケア病院としての役割を担う(在宅療養支援病院の機能強化、在宅サービス支援の充実)。
- ②地域包括ケアを支える人材の育成(総合診療医研修基幹施設、多職種連携教育)。
- ③地域ヘルスプロモーション病院としての活動(認知症ケア、フレイル予防、禁煙、生活習慣改善)。

1番目の「地域包括ケア病院としての役割」としては、まず、脳卒中や心筋梗塞などの超急性期の治療を終えて病院から退院してこられる方が在宅に戻るまでのポストアキュートの役割。そしてサブアキュート、つまり施設や在宅でちょっと発熱した、あるいは肺炎や心不全など、大学病院へ行くほどではないが在宅で治療するのは厳しいといった方々への対応です。この2つが在宅療養支援病院としての大きな使命です。そしてそのようにお預かりした患者さんを、また施設や在宅に円滑に戻っていただくのが非常に重要だと思っています。

またわれわれは公益社団法人として、へき地医療と離島医療の支援を行っていますが、その中で、東京都の島嶼部の患者さんがヘリや飛行機で都立病院へ搬送され、急性期の治療が終わった後に、一時期当院で受け入れて、帰島してもらうという取り組みも始めています。

ポストアキュート、サブアキュートの機能を果たしていくためには、急性期病院、あるいは医師会の在宅医療を担っている先生方と、ICTや日常の在宅療養カンファレンスなどで情報を共有していく取り組みが重要だと考えています。

在宅サービスについては、独居の方や重症の方の支援もできるように枠組みを広げ、さらには終末期で医療依存度の高い方に対応できるように、特定ケア看護師を自院で育成しています。

2番目の「地域包括ケアを支える人材育成」ということでは、今、台東病院は総合診療医専門研修の施設にもなっていますが、医師以外の多職種の学生の研修を引き受けて、職種を超えてお互いに学びあえるような環境を作りたいと考えています。それに職員が関わることで職員自身が成長する道筋ともしていきたく。当施設では、年1回、全職員のワークショップを開催していますが、多職種が協働できる環境づくりを心掛けています。

そして、3番目は「地域ヘルスプロモーション病院としての活動」です。HPH(Health Promoting Hospitals & Health Services=ヘルスプロモーションホスピタル=健康増進活動拠点病院)は、WHOの宣言に基づき、1991年欧州で開始されました。当施設でも今後10年間の運営方針の1つとして、HPHとして本格始動していきます。

これからの10年間、「『ずっとこのまちで暮らし続けたい』を応援します」を実践し、台東区の皆さんとともに、地域を支えていきたいと思っています。

イベント開催のご案内

「認知症カフェ 喫茶Y・O・U」を月1回開催しています。参加費は無料です。ぜひ、ご参加ください。

開催予定 5月18日(土)
6月15日(土)

場所 台東病院 1階エントランス
時間 14:00~16:00



認知症・フレイル予防の取り組み

台東区立台東病院・老健千束が開設して10年が経ちました。この間、当施設では「まちかど健康教室」や「在宅ケア教室」、「喫茶Y・O・U(認知症カフェ)」などの地域向けの活動を実施してきました。2016年3月からは当施設と地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター、そして女子栄養大学が協同して、「ヘルスプロモーション台東プロジェクト」を開始しました。当初は職員の禁煙推進プロジェクトが中心でしたが、現在は医師や看護師、リハビリテーション職、管理栄養士など、多職種がメンバーとなり、健康推進委員会として活動しております。

われわれは地域ヘルスプロモーション病院として、患者さまや利用者さまだけでなく、住民の方々および施設の職員等、全ての人に対するヘルスプロモーションを進めていきたいと考えています。

昨年9月には、院内全体で多職種の視点を活かして、連携して、事業を実施することを目的に、職員ワークショップを開催しました。認知症、在宅ケア、フレイル予防、禁煙推進という4つのテーマを設定し活発に議論を重ねました。

ここでは、その中の認知症とフレイル予防について簡単に説明します。

「喫茶Y・O・U(認知症カフェ)」は、この2年間、毎月第3土曜日に開催してきました。認知症について講義を中心に学ぶということだけではなく、ちょっとお茶を飲みに来て、参加者同士話したり、声を掛け合ったりする中で、認

知症の知識が増えたり、安心できたりできることを目指しています。毎回30~40名が参加しており、地域の方々が少しでも認知症への関心や知識が増えれば、たとえば認知症の方が歩いていたら少し声をかけてみようといったように、地域力が付いてくるのではないかと思います。またフレイル予防に関して

楠本 直紀

台東区立台東病院
リハビリテーション室主任
作業療法士



地域ヘルスプロモーション病院宣言

私たちは、これからも施設を利用する方だけでなく、
台東区の皆さまの健康のためにHPHとして さまざまな活動に取り組んでまいります。

は、当施設のロビーやリハビリテーション室が広く利用可能な資源であるため、「通いの場」などを提案できるのではないかと考えています。通いの場に関しては、地域住民が集まって運動する中で、つながりやネットワークが醸成され、地域づくりの一助になることを期待しています。

今後も、健康で住みやすい台東区を目指して、また新たな活動を行っていききたいと思っています。

→多職種ワークショップ



禁煙推進・食生活改善支援

海外に比べ日本では組織的な禁煙の推進が行われていないという実情から、地域医療振興協会では、台東病院をモデル施設として禁煙推進事業を展開することになりました。

入院や外来だけでなく、リハビリ・健診の場等で、すべての喫煙患者に禁煙を働きかけ、職員に対しても禁煙の支援を提供し、日本における組織的な禁煙推進するモデルを創出し、多職種連携で取り組むこと、禁煙推進の取り組みを患者と病院スタッフだけでなく、地域住民を対象とした活動へ展開することを目指しました。

7名)が参加して8名の方が禁煙に成功しています。

病院外への活動として、2018年から保健所と協力して小中学校で喫煙防止教育の取り組みを行っています。

今後は、整形外科の術前から禁煙支援をクリニカルパスに組み込んでいきます。喫煙によって術後の回復が遅延することが報告

されていますので、手術予定の喫煙患者に対しては、手術説明される同日に禁煙外来受診をルーチン化することを考えています。

また多職種が禁煙に関わることにより、禁煙率が高まることが報告されていますので、スタッフに対する禁煙支援のトレーニング体制を整備していく予定です。

一方、職員の健康支援の充実を図ることを目的に、2018年は食をテーマとし事業を展開しました。

当院は職員食堂がないため、職員の約30%が主に院内のローソンで昼食・夜勤食を調達しています。ところが品揃えが不十分で、バランスのよい食事を整えるのが難しい状況にあります。

そこで「ヘルシーローソンプロジェクト」に取り組むこととしました。主な狙いは、地域ヘルスプロモーション病院として、職員のみならず患者さま、利用者さまをはじめとする地域の皆さんの健康に役立つ食と、食に関する情報、そして食を楽しむ場を提供することです。

具体的には、低エネルギー、減塩、高タンパク質を3本柱にしてバランスのよい食事を提供すること。さらに、患者さま、利用者さまに食と健康に関するお手紙を配布することで、生活習慣病予防、フレイル予防を中心に、さまざまな食と健康に関する情報発信をしていきたいと思っています。また、食を楽しむ場の提供として、地域の方にも楽しんでいただける商品の配置、楽しい会話が弾むスペースを提供していきたいと思っています。

2019年4月に、ローソン台東病院店はリニューアルオープンしました。皆さまのご来場をお待ちしています。



高橋 麻衣子

台東区立台東病院
総合診療科



まず実態を知るために、2016年整形外科で手術を受ける患者の喫煙率の実態、禁煙外来受診者の分析、外来患者の喫煙状況の調査などを行いました。

その後、健診の場での問診票の改善と、短時間の禁煙アドバイスの徹底を行いました。

2017年職員向けの禁煙支援のニーズ調査を実施し、喫煙している職員に対して、短時間アドバイスを行った後に、JADECOMけんぼの禁煙補助事業案内のチラシを配布しました。この結果、喫煙者41名のうち9名(男性2名・女性

ヘルシーローソン



今後、地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センターから、ヘルスプロモーションをテーマに連載をしていきます。

認知症カフェ 喫茶 Y・O・U

2月16日、台東病院の1階エントランスにて「認知症カフェ 喫茶Y・O・U」を開催しました。

これは、「認知症になっても住み慣れた地域で自分らしい生活を続けることができるような地域づくり」を進めているなか、認知症高齢者支援事業として平成29年2月より、近隣の地域包括支援センターと連携し、作業療法士が中心となって企画し、地域住民のボランティアの方にお手伝いいただきながら、毎月第3土曜日に行っているものです。

この日はビデオ「2本の傘」を観て認知症について考え、グループワークを行ったあと、フリートーク、そして認知症予防体操を行いました。

認知症の有無にかかわらず、「交流の場」として多くの方に利用してほしいという目標をもっていますが、この日は42名と今までで一番多くの方が参加してくださいました。

